

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月25日(木)

《あなたがたは聖なる神殿 - 神様にとって尊い存在 - 》

今日の福音(ルカ 21・20 - 28)も終末について書かれています。

使徒パウロは、コリントの信徒への手紙の中で「あなたがたは、聖なる神殿です。」(神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。コリント一 3・17)とおっしゃいました。皆様は自分が聖なる神殿だという気持ちで生きていますか。使徒パウロは2000年前にそのように語ったのですが、2000年経った今でも私たちはミサに与り、ご聖体をいただいています。つまり、今の時代の私たちもご聖体につながることで心も体も聖なるものになっているのです。「あなたがたは聖なる神殿」という言葉を意識しながら、今日の福音を考えるとよいと思いました。

今日の福音の内容は二つに分けられます。一つは、イスラエルの歴史についての内容、もう一つは、最後にいつかイエス様が到来なさることについての内容です。

先ず歴史的に見ると、紀元後7年くらいにエルサレムはローマによって滅ぼされます。そしてエルサレム聖殿も全部壊され、形を失います。これは歴史的事実です。しかしそれは、イエス様が亡くなってから起こった出来事です。ですからイエス様の「エルサレムの聖殿は、石の上の石が残らないくらい全部バラバラに破壊される。」という預言は、実際にそのようになったのです。

その後、続いて話されるのは終末の話です。怖い話です。「太陽と月と星に^{しるし}徴が現れる。地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。」「天体が揺り動かされるからである。」と書かれています。終末には、自然科学では納得できない現象が起こると書かれています。そのことについて、カトリック教会では2000年間、いろいろな解釈をしてきました。そして、その時はいつ来るのか、についてもいろいろな意見がありました。

とにかく終末の時まで、自分を聖なる神殿として意識しながら生きられた人は、今日の福音の最後の言葉「このようなことが起こり始めたら、身を起して頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近いからだ。」の、『解放される人』になるのでしょうか。逆に自分が聖なる神殿であることを忘れて意識せずに、いつも自分を^{よご}汚す心を持ち、振る舞いをしてきた人は、素晴らしい解放の日を迎えることはできないのでしょうか。ですから、今日の福音を通してもう一回考えてみましょう。

私たちの人生は、^{よご}汚しながら生きるものかもしれません。しかし、神様の慈しみによって聖なる者であることを意識しようとするれば、いろいろな汚れから離れられるのではないかと思います。

皆様1人1人は聖なる方です。それは、皆様1人1人の中にイエス様が一緒にいらっしゃるからです。皆様は神様にとって尊い存在なのです。その尊い自分をもっと大事にしよう、もっと正しいものにしよう、神様の尊い存在にふさわしい生き方をしようとするのが何よりも必要だと思います。

ですから、皆様は自分を責める必要もないし、隣の人を責める資格もありません。なぜなら、皆様

が責めようとする相手も神様にとっては尊い存在だからです。

ところで、私たちの持ち主はどなたでしょうか。私たちの命の持ち主は神様ですね。では、私たちの生き方の持ち主、生き方を決める人は誰でしょうか。それも神様でしょうか？ いいえ、そうではありません。生き方を決める人、生き方の主人は、皆様です。ということは、主人としての自覚を持つことが必要になります。主人としての自覚を持ち、自分をどのように管理するか、どのように成長させるか、を考えることが必要になります。

しかし多くの方は、気づかないうちに主人ではなくて家来の気持ちになってしまっています。仕方なく生きて明日を迎え、いつも逃げるところ、避けるところを探している、そのような生き方をする人々が多いです。

聖なる神殿である皆様は、ご自分の生き方に、主人としての自覚を持ってください。自覚を持って行動することで、よいほうに変わるか悪いほうに変わるかが決まることをいつも意識しましょう。

ありがとうございました。